

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【南浦和小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全国学力学習状況調査、さいたま市学習状況調査の結果から全体的には基礎的・基本的な知識の定着が図れたと考えられる。より一層基礎基本の定着を図るため、基礎学力パワーアップタイムを教育課程に位置付け計画的に行い、ドリルパークやスタディサプリを効果的に活用していきたい。算数の加減と乗法、除法の計算に改善がみられたため、「数と計算」への取組を全学年で重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。	
思考・判断・表現	学習過程を見直し、活動の中に共同編集を位置付け、計画的に協同的な学びを通して考えたり、表現したりする活動を増やしていく。国語「読むこと」において課題がみられたため、行動や会話、地の文、叙述を基に読み取る活動や、意図的に発問等を行うなど重点的に取り組み、R7年度の全国学力・学習状況調査等で引き続き改善状況を検証していきたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 同集団経年比較の結果を見ると低下傾向が強い。算数「数と計算」の加減と乗法の計算において、正答率が他の問題に比べ若干低かった。<指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間が少ないため応用問題に対応できなかったためである。	今後も基礎学力パワーアップタイムの実施【週に1度、朝の時間】を徹底し、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用した、漢字や基本的な計算等の反復・習熟の充実を図る。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 学校としての平均正答率は、どの項目においても高い数値を示しているが、同集団経年比較の結果を見ると低下傾向が強い。国語・算数の「思考・判断・表現」の記述式問題の正答率が低い。<指導上の課題> 自分の考えや思いを伝える場が不十分であるため。	作品やレポート等に取り組む際のふり返しシート等や、協働的な学習の場面における伝え合い方等の基本的なスキルの指導を行うことで、思考力や判断力、表現力の向上を図る。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	朝の時間の中で週に1回、基礎学力パワーアップタイムを設けドリルパークやスタディサプリを活用した漢字や計算の習熟を図ることができた。昨年度課題がみられた算数「数と計算」では、R6年度さいたま市学習状況調査の同集団比較においてR5年度より1.6ポイント上がることであった。 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、R6年度さいたま市学習状況調査における肯定的な回答の割合は93%を超えた。
思考・判断・表現	B	単元計画を見直し、協同的な学びを多く取り入れることにより、自分の考えだけでなく他の意見にも触れ、新たな視点に気付くことができた。 R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていきますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は93%であり、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	算数の「変化と関係」の領域において、速さを道のりと時間の関係として捉え、立式・計算することはできている一方で、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方についての理解は不十分である。場面や目的に応じて比べ方を考察し、日常生活に即した問題に多く取り組む必要があると考えられる。 「授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていますか」における肯定的な回答の割合は92%であった。子どもの関心意欲を継続していけるような授業を今後も継続していく。	
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」の領域において課題が見られた。目的や意図に応じて、複数の資料や文章から必要な情報を取り出して整理し、自分の考えが伝わるように表現を工夫しまとめる力に課題があると考えられる。 「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか」における、肯定的な回答の割合は92%であった。今後も課題解決に向けた話し合い活動を積極的に取り入れ、相手に自分の考えを説明していく活動を重視していきたい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	理科「エネルギー」を柱とする領域において課題がみられた。児童が理科用語の意味を考えて使ったり、観察、実験などを行った後に適切な方法であったか確認したりする活動が必要であると考えられる。 昨年度課題がみられた算数「数と計算」加減と乗法において、類似問題の経年での比較より、正答率の上昇がみられた。	
思考・判断・表現	国語「読むこと」の領域において課題が見られた。登場人物の気持ちの変化について、行動や会話、場面や情景の移り変わりを基に読みとることができていないと考えられる。全文掲載シートや心情の変化を可視化する心情メータを活用し、一目で心情が分かる学習活動を増やしていく必要がある。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	週に1度、基礎学力パワーアップタイムの時間に「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組んでいる。毎時間とはいかなかったので引き続き取り組んでいきたい。	変更なし
思考・判断・表現	B	作品やレポート等に取り組む際の「ふり返しシート」に対してリアクション機能を使って評価できるようにした。協働的な学習の場面における伝え合い方等の基本的なスキルの指導を行うことで、思考力や判断力、表現力の向上を図った。	作品やレポート等に取り組む際のふり返しシートに対してリアクション機能を継続的に使って評価する。協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるように授業の中で共同編集を取り組んでいく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)